

鳥取砂丘東コース

鳥取砂丘は、大きく4つの砂丘に分けられます。そのうち最も東にあるのが福部砂丘です。福部砂丘の南側にはかつて湯山池がありました。そして、江戸時代の終わり頃から干拓が始まり水田に変わりました。また、池の周辺からは遺跡や大量の五輪塔も発見され、砂丘の飛砂と戦いながら暮らしてきた人々が偲べれます。



福部砂丘は農地として活用され、ラッキョウが栽培されています。真夏に植えられたラッキョウは、10月下旬から11月上旬に、赤紫の花を一面に咲かせます。そして、収穫前の5月には緑のじゅうたんに覆われたような美しい景観に変わります。

お弁当
食べるなら
ココ!



クイズその2
福部砂丘の沖にある海士島(あもうじま)は、別名何島と呼ばれているでしょうか?(ヒント:動物の名前です)(答えは裏面へ)

自転車道・遊歩道

ふくべふれあいランド

「砂丘温泉ふれあい会館」と「ほっとスイミングプール」があります。2階の展望浴場からは日本海が一望できます。
*砂丘温泉ふれあい会館
TEL(0857)75-2316
*ほっとスイミングプール
TEL(0857)74-3712

ラッキョウ畑では、農作業の邪魔にならないように散策しましょう。



基本コース

- スタート *時間は徒歩
- ①山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター
7分 ↓ 約500m
 - ②鳥取砂丘砂の美術館
5分 ↓ 約200m
 - ③弁天堂(多鯨ヶ池)
8分 ↓ 約500m
 - ④ラッキョウ畑
20分 ↓ 約1.4km
 - ⑤五輪石塔群
7分 ↓ 約400m
 - ⑥弥長神社
15分 ↓ 約1km
 - ⑦一ツ山離水海食洞
30分 ↓ 約1.8km
 - ①山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター
- 総移動時間 約1時間33分
全行程 約6km

ラッキョウ畑コース

- スタート *時間は徒歩
- オアシス広場
10分 ↓ 約600m
 - オススメポイント3
15分 ↓ 約800m
 - オススメポイント4
15分 ↓ 約1.1km
 - ⑦一ツ山離水海食洞
5分 ↓ 約300m
 - オアシス広場
- 総移動時間 約45分
全行程 約3km

凡例

	トイレ		撮影スポット
	駐車場		交通安全確認
	食事		田
	説明看板		畑・牧草地
	道順		
	基本コース		
	ラッキョウ畑コース		

クイズその1
砂像制作に用いられている砂は、どのような砂でしょうか?(答えは裏面へ)

梨園では梨狩りができるよ!
8月中旬~9月下旬頃:二十世紀梨
9月下旬~10月下旬頃:赤梨



みどころいっぱい鳥取砂丘

① 鳥取砂丘ビジターセンター



鳥取砂丘の東の玄関口にある山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターでは、展示やガイドによる案内で鳥取砂丘のさまざまな魅力を紹介します。ここで色々な情報を手に入れた後は、あなた自身で生きている鳥取砂丘を体感して下さい。
(問)0857-22-0021

② 鳥取砂丘砂の美術館



世界初の砂像展示専門の美術館。毎年テーマを変えて、世界トップレベルの彫刻家による作品を制作展示しています。鳥取砂丘周辺の観光案内及び地元特産品を集めた売店も併設されています。
(問)0857-20-2231

③ 弁天宮(多鯨ヶ池)



多鯨ヶ池(たねがいけ)には、宮ノ下(現鳥取市国府町宮ノ下)の長者に仕えていた「お種」が、蛇身に化けて島の柿をとったという「お種伝説」が伝わっています。池の北岸の大島には、水を司る弁天さまが祭られています。

④ ラッキョウ畑



鳥取砂丘の一部(福部砂丘)は、日本有数のラッキョウの生産地です。約120ヘクタールの畑は、10月下旬から11月上旬にラッキョウの花が咲き、赤紫色のじゅうたんを敷き詰めたような美しい光景が広がります。

⑤ 五輪石塔群



中世の頃、砂丘の背後に湯山千軒、多鯨千軒といった大集落があったという伝説が伝わっています。それを証明するかのような大量の五輪塔が、湯山の砂丘地の地下から発見され、ここに集められています。

⑥ 弥長神社



この神社には、祭神として神功皇后が祭られています。神功皇后が三韓出兵の帰国の折に、この近くに寄港したと伝えられています。

⑦ 一ツ山離水海食洞



かつての海岸線の崖が侵食を受けてできた洞窟です。縄文時代前期の海面が高かった頃(縄文海進時)にできたと考えられています。その後の海退と砂丘の形成によって陸上に取り残されました。

おすすめ：火山灰層はぎ取り標本



山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターには火山灰層はぎ取り標本が展示されており、約6万年前に大噴火した大山火山の火山灰と、その上下の火山灰質土壌が観察できます。これらの下に見える砂層が古い砂丘(古砂丘)であり、上にある砂層が現在の砂丘(新砂丘)です。

おすすめ：宿院義般頭彰碑



安政6(1859)年から、福部砂丘南側の湯山池の干拓が始まりました。この事業を計画したのが地元在住の宿院義般(しゅくいんぎはん)です。多鯨ヶ池から水路を掘って水とともに砂を流し、砂丘畑の灌漑と湯山池の埋め立てを行いました。

おすすめ：直浪遺跡



昭和21(1946)年に発見され、昭和30(1955)年、昭和51(1976)年などに発掘調査が行われました。この調査で、縄文時代前期から古墳時代までの土器などが多数発見されています。福部砂丘の南側にあった湯山池の周辺が、人々の生活の拠点になっていたことが考えられます。

ジオコラム①

砂丘ラッキョウの誕生

砂丘地は、各地で江戸時代から新田の開拓が推し進められましたが、福部町の砂丘は海拔が約70メートルもある丘であり、飛砂が激しく、水の確保が困難なため、開発が大きく遅れました。大正3(1914)年に浜本四方蔵が、福部の砂丘地でのラッキョウ栽培に成功し、大正6(1917)年には佐々木甚蔵らとともに砂防の植林に全力をあげ、産業組合ができ、栽培面積が拡大しました。昭和38(1963)年には、農業構造改善事業により、山成り開墾という起伏のあるままの傾斜畑のリスク管理が施され、農道は舗装され、機械やトラックの利用が可能になり、日本有数のラッキョウ産地として発展しました。現在では、ラッキョウの花の咲く10月下旬から11月上旬には、「らっきょう花マラソン」や「らっきょう花フェア」なども行われ、観光やスポーツの場所としても楽しまれています。



ジオコラム②

多鯨ヶ池の成因と湯山池の干拓

多鯨ヶ池は、砂丘が谷水をせき止めてつくった「せき止め湖」です。江戸時代の古地図や文献では、北岸の大島は島として描かれていますが、現在では押し寄せる砂によって陸続きになりました。以前の多鯨ヶ池はもっと大きかったことがうかがえます。また、多鯨ヶ池の東に位置していた湯山池は、安政6(1859)年に干拓が始まっています。飛砂のために田畑が埋まり苦労していた農民たちを救うためには、植林とともに湯山池を干拓し新田を作ることを考えたのが宿院義般です。多鯨ヶ池の水位が湯山池よりも17メートルほど高いことを利用し、トンネルを掘りその水流に砂を流して湯山池を埋め立てる計画を立てました。そして、明治4(1871)年までに約50ヘクタールを埋め立てました。



①古い砂丘(古砂丘)の砂
②波の高いときは、潮をふいていくくじらのように見えることからくじら島と呼ばれています。(または亀島とも呼ばれています)